

**STEP（社会的信頼システム創生センター）**  
「信頼実験・シミュレーションゲーミング」チーム  
「信頼をめぐるアクション・リサーチ」チーム

**合同研究会**

**日時** 2011年1月29日(土) 14:00~16:45

**場所** STEP アクションリサーチ・アトリエ(ARENA)

(関西大学千里山キャンパス 第3学舎B棟5階)

**【プログラム】**

14:00~15:15 藤原 勇氏（社会的信頼システム創生センターRA）

「勤労者におけるメンタリング受容/行動の規定因の検討と精神的健康への影響」

15:30~16:45 松岡 慧祐氏（社会的信頼システム創生センターRA）

「地域情報・地域表象としての地図

——天満天神におけるまちづくりと地図づくりの可能性——」

**【藤原報告概要】**

職場の一つの課題として、いかにしてキャリア発達を促すかということがあります。その課題解決への一つの試みとして、近年、メンタリングが注目されています。

仕事や人生について悩み、迷う若手に対して、手助けや助言を与える経験豊かな者をメンター (mentor)、それを受ける若手をプロテジェ (protege) またはメンティ (Mentee) と呼び、こうしたメンターとプロテジェの間で信頼などに基づいて行われる発達・育成を目的とした支援・被支援行動、あるいはその関係性をメンタリング (mentoring) と呼びます。

メンタリングはキャリア発達を促すとともに、精神的健康を促すと指摘されています。

この度の研究では、メンターとプロテジェの両方の視点を考慮するために、メンターがプロテジェに与える支援をメンタリング行動、逆にプロテジェがメンターから受ける被支援をメンタリング受容、と区別し、それらがキャリア発達や精神的健康 (ストレス反応やストレス対処行動 (コーピング) や幸福感) に及ぼす影響を検討しました。その結果を報告させていただきます。

**【松岡報告概要】**

われわれは、大規模な世界や国家だけでなく、身近な都市空間や地域社会も、地図を媒介にした平面的な空間像としてイメージし、経験している。とりわけ、人びとが土地に根づかず、地域の共同性や固有性が希薄化する現代社会において、地図はまちの情報やイメージを生産し、人と場所・社会をつなぐメディアとしての重要度を増しつつある。

そこで本報告では、そうした地域情報・地域表象としての地図の社会的機能について考えるための手がかりとして、生活・商業・観光・歴史・文化などの意味が折り重なる大阪・天満天神地域のさまざまな地図を紹介し、それらが地域の社会的な現実をいかに表象し、構成しているかを考察する。そのなかでも特に、地域のなかで人びとや諸組織が独自のマップを制作・発信する営みに焦点をあて、それがまちづくりにもたらす可能性を示唆したい。

**どなたでも参加できます。前もって、下記までご連絡ください。**

連絡先：林 直保子 (nhayashi@kansai-u.ac.jp)